

学外実習 (Internship)		4 年・夏季・1 単位・選択 電子制御工学科・担当 西田茂生
[準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標 (4)]	[システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標] D-2 (80%), A-2 (20%)	[JABEE 基準] (d-2d), (i), (b)
<p>[講義の目的]</p> <p>企業などでの実習を通じて、技術者の心構えや社会人としてのあるべき姿を学ぶ。また、これまでに学習してきた専門知識がどのように応用されているのかを知り、今後の学習に役立てるとともに、自主性、創造性、協調性を学ぶ。「単位取得」ましてや「アルバイト」が目的ではないことをよく理解する。</p>		
<p>[講義の概要]</p> <p>原則として実習先の企業などで用意されたテーマの実験、あるいは実務を体験することになる。なお、実現の可否は別にして、各自でテーマを用意して実習に望む態度も重要である。</p>		
<p>[履修上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先で発行される学外実習修了証明書、実習中に担当者に提出する業務日誌、実習修了後に学内提出する成果報告書、および成果報告会すべてを満足することで履修条件とする。 ・実習中はくれぐれも安全に留意すること。 ・実習者は保険に加入することを義務づける。 ・学外実習を通して必ずしも一つではない解をもつ問題に取り組むことを体験し、自主的に取り組む姿勢を学ぶこと。 		
<p>[到達目標]</p> <p>実習中に必要とした専門知識とこれまでに学んできた知識との関連を把握する。また、実習先の技術者と積極的に交流し、それによって得た知識・作法を今後の学習に生かして欲しい。</p>		
<p>[自己学習]</p> <p>目標達成のためには、実習先の企業をよく研究し事前準備を怠らないこと。</p>		
<p>[評価方法]</p> <p>実習先で発行される学外実習修了証明書と業務日誌 (50%)、実習成果報告書(25%)、学内における学外実習成果報告会での発表 (25%) とするが、すべてを行うことが単位認定の条件であり、実習態度などに問題なく、成果報告も十分である場合に電子制御工学科全教員で協議して「単位認定」する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>なし</p> <p>[補助教材・参考書]</p> <p>過去の学外実習報告書、ガイダンス資料、学外実習事前指導資料などの配布プリント</p>		
<p>[関連科目]</p> <p>電子制御工学科専門各科目。それ以外に一般社会常識も必要であるから、これらについては日頃から学習しておく必要がある。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第1週			
第2週	1. 実施時期 2. 実施期間 3. 実習の内容 4. 学外実習先 5. スケジュール	夏季休業期間中 5日間以上にわたり、合計30時間以上従事 設計、生産技術、生産管理、品質管理、実験および実験助手、機能・性能・材料試験、販売、サービスなどの分野 学科が認めた実習先（民間企業、研究機関、行政機関） 5月 学外実習ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・ 概要説明 ・ 実習先企業の紹介と実習内容の説明 ・ 安全教育 ・ 希望調査と割り振り 6月 事前研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学外実習の心構えなどの事前学習 ・ 講演会出席（外部講師） 7月～8月 実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習先でのオリエンテーション ・ 実習 ・ 日誌および報告書の作成 9月 学外実習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果報告書の提出 ・ 学外実習の成果報告会 	
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週			
第8週			
第9週			
第10週			
第11週			
第12週			
第13週			
第14週			
第15週			
第16週			
第17週			
第18週			
第19週			
第20週			
第21週			
第22週			
第23週			
第24週			
第25週			
第26週			
第27週			
第28週			
第29週			
第30週			

* 4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）